

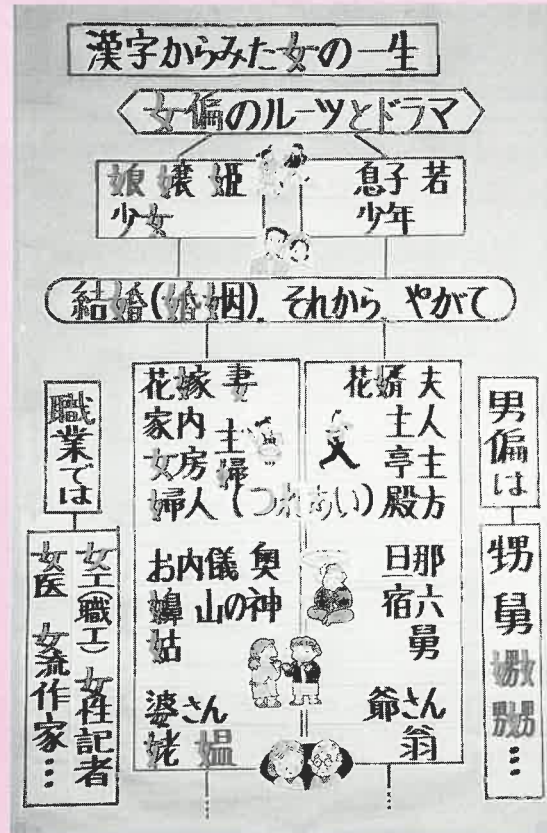
「漢字からみた“女の一生”」

平成13年度の男女共同参画週間が、去る6月23日から29日までありました。

それに先立って、意識部会でも週間にちなんだ行事を取り入れるということで計画がたてられました。今年が目玉ということで、日常ちょっと気にしながら読み書きしている「女偏」を使った漢字を追求してみようということになりました。

実際に辞書をもとに調べてみると驚くほどの漢字が出てきます。なお、気をつけて目を通すと女性を卑下したり卑猥な意味をもった字、揶揄した字、女性を差別したり蔑視した漢字の多さに驚くばかりでした。

日常見たり使ったりしている漢字の「女偏」の多さや意味あいについてどれだけの方が気付いているのだろうか。そんな疑問から、多くの人達に知ってもらおうということでまとめました。



どうして“女”がつくの……？

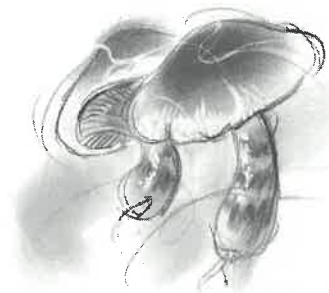
この字、知ってますか？、読めますか？。

嫋 姦 嫉 媚 嫖

※読み方は
下の欄を
ご覧下さい。

編集後記

敬老の日、地域の高齢者の方に記念品をお届けしました。名簿の6割が女性。平均寿命の男女差は10才近い。これってなぜ…？。世界中どこでも女性はお喋りである…と何かの講演会で聞いたことがあります。故にストレスが溜まらないとか。友人曰く「社会的ストレスも少ないんじゃない」「なるほどネ」と思わず考え込んだ一日でした。



“いっしょに語ろう
男女共同参画について”



(大和公民館にて)

男女共同参画社会づくりを進めている市民協議会と大和区との交流会が行われました。超高齢化、少子化と変わりつつある今こそ、住民の意識改革も必要と多くの参加がありました。

最初に内閣府の制作した「男女共同参画社会基本法のあらし」のビデオを鑑賞、これを参考に5グループに分かれフリートーキングしました。男女共同参画を初めて耳にした人、知っている人、様々でしたが、時間経過と共に日頃感じていること、思っていることなど本音もチャリリ…、盛り上がりました。育児、介護、家事など家庭内での役割分担、地区役員、社会制度、学校教育まで幅広い活発な意見交換ができました。

大和区役員の方々への積極的な取り組みに感謝し、こうした地区との交流会が広がって行くことを念じつつ幕を閉じました。

主な内容

- 2面 自分らしく輝く
加賀美幸子先生
- 3面 市民協議会部会活動発表
- 4面 漢字からみた女の一生

みんなで考えよう

「第2回 ともに生きる諏訪市民大会」

9月1日諏訪市文化センターで、アナウンサー・千葉市女性センター館長の加賀美幸子先生を講師に、「自分らしく輝く」というテーマでお話をいただきました。

人間平等と信じ、卑屈にならず、謙虚に堂々と胸をはって生きてこられた先生のお話は風格そのものであり、満員の聴衆を魅了し、あっというまの90分でした。

自分らしく輝く



21世紀は人間として老若男女・病・障害のあるなしにかかわらず、自分らしくいきいきと生きて行けるかが問われる時代です。また、自分のことだけでなく人間全体、地球全体のことでも考えなくてはならない時期でもあります。20世紀は大きな戦争、自然破壊、環境汚染、教育問題が大きいのしかかった時代でした。これらをどう修正し、回復して行くかということも問われています。まわりの人を思い憂う、案ずる優しさと、恥ずる心とは原点は同じだと思います。

いろいろな差別に気付く、そして差別することの恥ずかしさに気付くことがお互いを思いやる優しさであり、この心が21世紀に求められていると思います。

38年間アナウンサー一筋の生活を通して出会った、豊かな人生経験を持った方々との体験の中で時に思うこととして「育児、仕事は大変で当たり前。仕事が半端であった時、育児、家事のせいにしてはいけない。自分の意識のありようで、人のせいにしないこと」等女性の甘えを厳しく指摘されました。また「生きることは行動すること」と青鞥の女たちを引用されました。

女性センター館長の立場からは、「男女共同参画社会」を振りかざさない。男性はつっ走る性癖があり、それにブレーキをかけるのが女性、強さがなければブレーキはかけられません。強さって何でしょう？

21世紀のテーマは「ゆとり」。耳をすませばゆとりのメッセージが聞こえてきます。しかし自分にゆとりがないとだめ。人から生き方の鍵を見つけ、頂き、ゆとりを持っていきいきと生きる21世紀でありたいと思います。



男女共同参画のまちづくり

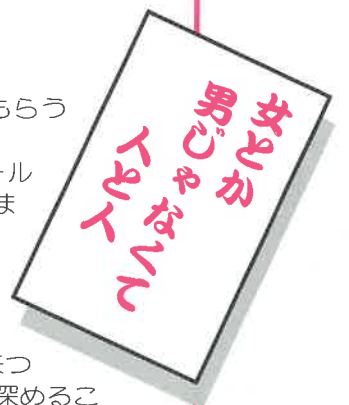
講演に先だち、昨年6月に市民公募で発足した男女共同参画市民協議会の、3部会の活動発表をしました。

意識づくり部会

男女平等の意識の啓発や教育の推進をめざして、①知ってもらう②理解してもらう③参加してもらうを重点に活動しています。

今年度の活動では、「本町2丁目アムニティ促進委員会」との交流会で、ロールプレイ（役割演技）の手法による高齢者介護をテーマとした寸劇を取り入れてみました。6月の男女共同参画週間には「女」偏の漢字の由来について学習し、市図書館に展示をしました。また、大和区民との交流会では啓発ビデオの鑑賞をとおして、地域活動の中での男女共同参画について話し合いをし、活発な意見交換ができました。

まだ、発会2年足らずですが、男女共同参画社会実現のための方向付けが出来つつあり、各地域・行政・企業等へと活動の輪を広げると共に、会員相互の研鑽を深めることを今後の課題として活動していきたいと考えています。



環境づくり部会

昨年行った区役員実態アンケートの結果、意識の面では女性の参画を積極的に望んでいても実態がともなっていない現状について幾つかの特徴点がみられ、役員に女性が少ない要因として女性の消極性や経験の場の不足、区民名簿の作成・表示方法等が推測されました。そこで今年7月に、各区へ「役員選出規約への男女構成比の具体的な目標数値の設定」、「性別による役割分担意識の解消、慣行の見直しのための学習や区民の話し合いの機会」等についての提案をさせていただきました。

また、職場における男女の雇用について、連合長野を訪問し自治労・電気労連等の方々から実状を伺いました。仕事の面での男女差は徐々に解消されて来ているものの、女性の登用、育児・介護、家族の理解など、女性が働き続ける上ではまだまだ様々な障害があることがわかりました。

現在は、農村・農業について取り組み始めたところですが、関係者の協力と理解を深めながら、諸課題解決に向けて、より良い環境づくりを目指したいと思います。



生活づくり部会

諏訪市の子育て支援の現状と問題を探るべく、学習会や保育園の保護者との話し合いを進めてきたところ、市全体としての子育て支援の体制づくりが必要と考え、7月3日に、以下の3つの点について市長に提言をしました。

①親子が共に集い仲間づくりをしたり、育児の不安を話し合ったり相談できる場、また各専門機関の連携の要となる「子育て支援の拠点づくり」。総合福祉センター設置にあたってはこの拠点を確保して欲しい。②3歳未満児保育や休日保育の拡充、一時保育・病児保育の充実など多様な保育ニーズへの対応、父親の育児参加や親子同時入園、世代間交流など「親と子の自立支援としての保育園の充実」。

③「障害児と共に育つ地域社会をめざす」特に清水学園の充実。通園訓練指導、相談指導、リハビリ、保育園・幼稚園への巡回指導の充実や、障害者と地域住民とが交流する機会をつくって行くことが必要。保育園の統廃合や再編成の検討の際は、是非、清水学園と保育園の併設を検討して欲しい。

